



2012 年フルクテンbaum博士セミナー

聖書が教える死後の世界

—— 一個人的終末論 ——



講師：アーノルド・フルクテンバウム博士

通訳：中川健一

ハーベスト・タイム・ミニシリーズ

目 次

I. 不滅 (IMMORTALITY)	1
A. 意味 (定義)	1
B. 不滅の証拠 (17 の具体例がある)	1
C. 不滅の教理がもたらす益 (3 つの益)	3
D. 誤った説 (4 つの説)	3
II. 中間状態.....	8
A. 意味.....	8
B. 信者たち.....	8
C. 不信者たち.....	8
D. 中間状態の体 (5 つに分けて論じる)	9
E. 誤った説 (2 つある)	11
III. 死者の場所.....	16
A. 見えない場所 (13 の用語がある)	16
B. 旧約聖書の時代.....	26
C. 新約聖書の時代.....	26
D. 将来.....	27
E. 誤った説.....	30

I. 不滅 (IMMORTALITY)**A. 意味 (定義)**

*死とは、肉体と非物質的な部分との分離である。

*不滅とは、「非物質的な部分が肉体から分離した後、永遠に、継続して、意識をもって存在すること」である。

*神学的には、「不滅」は肉体にも非物質的な部分（霊魂）にも適用される言葉。

*ただし、聖書は「不滅」という言葉を肉体に関してのみ使っている。

*1 コリ 15：53～54

「朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです」

*これは、教会の携挙の時に起こる。

B. 不滅の証拠 (17 の具体例がある)**1. 自分の民に加えられる**

*創 25：8 アブラハムの死

*創 25：17 イシュマエルの死

*創 35：29a イサクの死

*創 49：29 ヤコブの遺言

*創 49：33 ヤコブの死

2. 先祖のもとに行く

*創 15：15 神からアブラハムへの預言

*創 47：30a ヤコブの遺言

3. エノクはいつまでも存在する

*創 5：24

*ヘブ 11：5

4. ヨブが受けた保証

*ヨブ 14：14a ヨブの質問

*ヨブ 19：25～26 神からの答え

5. 復活の教理

*肉体の復活は、霊魂の不滅と相関関係にある。

*旧約聖書 イザ 26：19、ダニ 12：2～3、ホセ 13：14

*新約聖書 ヨハ 5：25～29、黙 20：4～6、11～15

6. 意識のある霊魂 (SOUL)

*死後、霊魂は神とともにあり、意識がある。

*詩 17：15 (ダビデの信仰)

*詩 73：23～25 (アサフの信仰)

*伝 12：7

*ルカ 23：43

*ヨハ 14：3

*2 コリ 5：1～8

*ピリ 1：22～24

7. 死者のところに行く

*2 サム 12：23 (ダビデの言葉)

8. よみ (シオール) (黄泉、陰府) の霊魂に意識がある

*イザ 14：9～11 (バビロンの王は、シオールの地獄の部分に行っている)

*ルカ 16：19～31 (金持ちとラザロのたとえ話)

9. 永遠を思う心

*伝 3：11

10. サウルの前に現れたサムエル

*1 サム 28：8～19

11. 神は生ける者の神である

*マタ 22：29～32

12. 死んでも生きる

*ヨハ 11：25～26

13. 将来の栄光の約束

*ロマ 8：18

14. 将来の命の約束

*1 コリ 15：19

15. 霊魂は新しくされる

*2 コリ 4：16～18

16. 福音によって明らかにされた

*2 テモ 1：10

17. 将来の報奨と裁き

*マタ 11：20～24、13：49～50、25：34、41、46

*ロマ 2：5～11

*2 テモ 4：7～8

C. 不滅の教理がもたらす益（3つの益）

1. 将来の喜びの希望

*ピリ 1：23～24

2. 地上生涯は一時的

*ピリ 3：20

3. 義なる生活を送る動機

D. 誤った説（4つの説）

1. 生存は終了する

*霊魂有限説

*これは、無神論の説である。

2. 霊魂は輪廻する

*死後の霊魂は、天国にも地獄にも行かず、他の人間や動物に入る。

*未信者の説であり、聖書的根拠はない。

*ルカ 1：17 の解釈（エリヤとヨハネの関係）

*ヘブ 9：27 の原則がある。

3. 条件付きの不滅

* 信者のみが死後も生存する。

* カルトの説であるが、信者の中にもこの説を信じる者がいる。

4. 霊魂の抹殺

* 未信者は、死後に裁きに会い、その後霊魂は抹殺される。

a. エホバの証人やセブンスデー・アドベンチストの説

b. この説を支持する議論

(1) 神学的議論 (8 つある)

① 神の愛

② 神の正義

③ 霊魂に生来の不滅があるわけではない。

* 創 2 : 7 と 3 : 19

④ 悪が存在し続けるなら、神は失敗したことになる。

⑤ 死んだ幼児や無知な異教徒はどうなるのか。

⑥ 裁きは、矯正の目的で行うべきである。

⑦ 不信者の永遠の存在は、神と宇宙にとって重荷となる。

⑧ もし不信者が永遠の苦しみにあるなら、信者は喜んで生活ができない。

(2) 聖書的議論 (16 ある)

* 「滅ぼす」という言葉に根拠を置いた議論

① マタ 10 : 28

② マタ 7 : 13

③ ロマ 9 : 22

④ 2 ペテ 2 : 12

⑤ ピリ 3 : 19

⑥ 2 ペテ 2 : 1

⑦ 1 テサ 5 : 3

⑧ 2 テサ 2 : 8

⑨ エゼ 18 : 4、20

⑩ 詩 146 : 4

⑪ 伝 9 : 5

⑫ 創 2 : 7 と 3 : 19

⑬ ハデスとシオールは「忘却と死」を意味する。

⑭ コロ 1 : 20

⑮2 テモ 1：10

⑯1 コリ 15：25～26

c. この説を否定する議論

(1) 神学的議論 (8 つある)

①神の愛

* 一時的な裁きを認めながら、永遠の裁きを否定するのは矛盾である。

②神の正義

* 人間の見解で、神の正義を論じるべきではない。

③靈魂に生来の不滅があるわけではない。

* ルカ 16：19～31

④悪が存在し続けるなら、神は失敗したことになる。

* これもまた、人間の見解である。

⑤死んだ幼児や無知な異教徒はどうなるのか。

* 聖書は、幼児に関しては沈黙している。

* 神の義に関する人間の見解は、聖書の見解ではない。

⑥裁きは、矯正の目的で行うべきである。

* 裁きのための裁きというものがある。

⑦不信者の永遠の存在は、神と宇宙にとって重荷となる。

* 神がそのように計画されたのだから、重荷とはならない。

⑧もし不信者が永遠の苦しみにあるなら、信者は喜んで生活ができない。

* 信者は神の臨在の喜びを味わうようになる。

* 現在私たちが感じている心配は、その喜びを妨げるものではない。

(2) 聖書的議論 (16 ある)

* 「滅ぼす」という言葉に根拠を置いた議論

* ギリシア語の「アポルミ」。KJV では「destroy」と訳されている。

マタ 10：6、28、15：24、16：25 など

①マタ 10：28

* 「アポルミ」は、抹殺を意味していない。

* マタ 10：6、15：24、16：25、ルカ 19：10 など

* 以上の例では、「失われた状態」にある。

②マタ 7：13

③ロマ 9：22

④2 ペテ 2：1

⑤ピリ 3：19

*②～⑤では、「アプレイア」というギリシア語が使われている。

*これは、無駄な状態、役立たずの状態を指す。

*マタ 26：8、マコ 14：4 など参照

⑥2 ペテ 2：12

*ここでは、「フソーラ」というギリシア語が使われている。

*これは、腐敗、墮落を指す。

⑦1 テサ 5：3

*ここでは、「ホレフロス」というギリシア語が使われている。

*大患難時代の物質的世界の滅び

⑧2 テサ 2：8

*ここでは、「カタルゲオウ」というギリシア語が使われている。

*反キリストが働けなくなる事

*黙 19：20 参照

*黙 20：10 で、千年後も反キリストは生きている。

⑨エゼ 18：4、20

*死は、分離のこと。

*エペ 2：1～3、9

⑩詩 146：4

*3 節と 4 節を文脈の中で解釈する。死ぬとその人の計画は終わる。

⑪伝 9：5

*これは人間の哲学を述べたものであって、聖書の教えではない。

⑫創 2：7 と 3：19

*土に帰るのは肉体だけ。

*ルカ 16：19～31 参照

⑬ハデスとシオールは「忘却と死」を意味する。

*これはギリシア語やヘブル語の意味ではない。

*ルカ 16：19～31 参照

⑭コロ 1：20

*例外なしにすべてのものが、ということではない。

*さまざまなものが和解させられるということ。

⑮2 テモ 1：10

⑯1 コリ 15：25～26

*⑮と⑯に書かれている死とは、肉体の死（第一の死）である。

d. それ以外の議論（11 の議論がある）

①ダニエルの預言

- *ダニ 12：2
- ②永遠のいのちと永遠の裁き
 - *マタ 25：46
- ③消えることの無い火
 - *マコ 9：47～48
- ④墮天使
 - *ヘブ 2：16
 - *コロ 1：20
- ⑤永遠の裁き
 - *ヘブ 6：2
- ⑥永遠の刑罰
 - *ユダ 7
- ⑦永遠の火の池
 - *黙 14：11
 - *黙 15：7
- ⑧獣と偽預言者
 - *黙 19：20 と 20：10 の比較
- ⑨「アイオウノス」というギリシア語
 - *マタ 25：46 では、同じ言葉が信者と不信者に使われている。
- ⑩神は永遠である（アイオウノス）。
 - *黙 4：9、10：6、15：7
 - *ヘブ 9：14
- ⑪とこしえに、世々限りなく（For Ever and Ever）
 - *黙示録に 13 回出て来る。
 - *9 回は神に関して
 - *1 回は天にいる聖徒たちに関して
 - *1 回は火の池にいるサタンに関して
 - *2 回は火の池にいる不信者に関して

II. 中間状態**A. 意味**

- * 死と復活の間の状態
- * 人間存在の 3 つの状態の中の第 2 の状態

B. 信者たち

- * 死の瞬間に靈魂の聖化は完成し、栄光に入る。
- * 死者の靈魂は、天において神の臨在の前に置かれる。
- * 靈魂は、罪や苦しみから解放され、喜びに満ちている。
- * 肉体は、復活まで墓に留まる。
- * 肉体はメシアにつながっている。

1. より良い状態

- * ピリ 1 : 23~24

2. 休息の状態

- * 黙 6 : 9~11
- * 黙 14 : 13

3. 意識のある状態

- * 黙 7 : 16~17
- * 5 つの描写
 - 飢えることもなく
 - 渴くこともなく、
 - 太陽が打つこともなく、
 - 炎熱が打つこともなく、
 - 神が彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。

C. 不信者たち

- * 信者の状態とは正反対
- * 3 つの聖句

1. 苦しみ状態

*ルカ 16：19～31

*これは、たとえ話ではない。

*イエスが語った実話である。

2. 閉じ込められた状態

*1 ペテ 3：19

*地獄にいるので閉じ込められた状態にある。

3. 裁きの状態

*2 ペテ 2：9

*白い御座の裁きまで、地獄に閉じ込められている。

*肉体の復活の後には、さらに大きな苦しみに会う。火の池。

4. 推論（3つある）

①不信者は、苦しみの状態にある。

②不信者は、閉じ込められた状態にある。

③不信者は、白い御座の裁きの日まで、苦しみと閉じ込められた状態にある。

*信者も不信者も、その靈魂は意識を持った状態にある。

D. 中間状態の体（5つに分けて論じる）

1. 論点

*死後の靈魂は、復活までの期間に、中間状態の体を有するのだろうか。

2. 鍵になる聖句 2 コリ 5：1～10

「私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があることを、私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家です。

私たちはこの幕屋にあっとうめき、この天から与えられる住まいを着たいと望んでいます。それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないからです。

確かにこの幕屋の中にいる間は、私たちは重荷を負って、うめいています。それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえって天からの住まいを着たいからです。そのことによって、死ぬべきものがいのちにのまれてしまうためにです。

私たちをこのことになう者としてくださった方は神です。神は、その保証として御霊を下さいました。

そういうわけで、私たちはいつも心強いのです。ただし、私たちが肉体にいる間は、

主から離れているということも知っています。

確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。

私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。

そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。

なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです」

a. 分析

1 節

2 節

3 節

*体がないなら裸であるということが示唆されている。

4 節

*「死ぬべきものがいのちにのまれてしまうために」

*1 コリ 15：50～58 の要約

5 節

*保証として聖霊が与えられている。

6 節

7 節

8 節

9 節

10 節

*1 コリ 3：10～15

b. 推論（5つある）

(1) パウロが論じているのは、中間状態の体か、復活の体か。

*復活の体である証拠がある。

(2) 1 節では、「永遠の家」と言われている。

(3) もし中間状態の体があるとしたら、それは復活の後どうなるのか。

(4) 3～4 節は、一時的に裸の状態になることを示唆している。

(5) 10 節は、復活とキリストの裁きの座とを関連づけている。

c. 結論

(1) これは中間状態の体があることを教えているのではない。

(2) ここで論じられている体は、復活の体である。

3. 疑問

- * 体から離れた霊魂は、なんらかの体を持たないと機能しないのではないか。
- * 聖霊に関して (ヨハ 4 : 24、3 : 8)
- * 御子は受肉の前は霊であった。
- * 父なる神には肉体はない。
- * 天使は霊的存在である (ヘブ 1 : 14)。

4. 状態

- * 死後の霊魂は、肉体のない霊魂である。
- * 1 サム 28 : 12~19
サムエルは、霊の状態でシオールから出てきた (13 節)。
死んだときの彼の状態で出てきた (14 節)。
- * ルカ 16 : 19~31
ラザロ
アブラハム
金持ち
- * 変貌 (マタ 17 : 3、マコ 9 : 4、ルカ 9 : 30~31)
イエス (生きている)
モーセ (死んでいる)
エリヤ (生きたまま天に上げられた)
- * 黙 6 : 9~11

5. 結論

- * 中間状態の体は存在しない。

E. 誤った説 (2 つある)

1. 第二の機会

a. 2 つの形態がある。

(1) 限定的第二の機会

- * 幼児期に死んだ霊魂
- * 福音を聞かずに死んだ霊魂

(2) 無限定の第二の機会 (3つの説がある)

① 普遍的救い (Universalism)

悔い改めは必要ではない。

② 回復主義 (Restorationism)

すべての人がやがて悔い改めるようになる。

③ 普遍的和解 (Universal Reconciliation)

火の池で長期間苦しんだ後、すべての人が神と和解する。サタンも。

b. 擁護する議論 (5つの聖句)

① 使 3 : 21

② 1 コリ 15 : 27~28

③ コロ 1 : 20

④ ピリ 2 : 9~10

⑤ 1 ペテ 3 : 19 と 4 : 6

c. 否定する議論 (5つの議論)

(1) 使用される聖句の検討

① 使 3 : 21

「預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時」

② 1 コリ 15 : 27~28

不信者も御子に従うという教えである。

③ コロ 1 : 20

もし信じるなら、救われる可能性が与えられている。

④ ピリ 2 : 9~10

すべての者 (不信者も) が、やがて神の権威に服する。

⑤ 1 ペテ 3 : 19 と 4 : 6

この2つの聖句は、文脈が異なる。

3 : 19 の動詞は、「ケイルツソ」である。宣言するという意味。

救いの宣言ではなく、裁きの宣言である。

ノアの時代に従わなかった特定の霊たちに対する宣言である。

4:6 は、今は死んでいる人たちに、生前福音が宣べ伝えられていたということ。

(2) 死者の霊魂の状態は固定化されている

* マタ 13 : 41~42

* マタ 22 : 13

* マタ 24 : 51

- *マタ 25 : 30
- *ルカ 16 : 19～31
- *ヨハ 8 : 21 と 24
- *2 ペテ 2 : 4
- *2 ペテ 2 : 9
- *ユダ 7
- *ユダ 13

(3) 最後の裁きの基礎になる。

- *最後の裁きは、肉体において行った業に基づいて行われる。
- *中間状態で起こったことは、裁きのベースとはならない。
- *マタ 7 : 22～23、10 : 32～33、25 : 31～46、ルカ 12 : 46～48、2 コリ 5 : 9～10、ガラ 6 : 7～8、2 テサ 1 : 7～10

(4) 最終的な決断は、地上生涯において下される。

- *2 コリ 6 : 2
- *ヘブ 9 : 27

(5) いかなる形の普遍主義も、聖書とは矛盾する。

- *マタ 25 : 46、ヨハ 5 : 29、黙 20 : 11～15

2. 霊魂の眠り

a. 擁護する議論 (3つある)

(1) 死者は眠っている。

- *旧約聖書
詩 13 : 3、ダニ 12 : 2
- *新約聖書
マタ 9 : 24、27 : 52、マコ 5 : 39、ルカ 8 : 52、ヨハ 11 : 11～14、使 7 : 60、13 : 36、1 コリ 15 : 6、18、20、51、1 テサ 4 : 13～14、2 ペテ 3 : 4

(2) 死者は無意識状態である。

- *詩 6 : 5
- *詩 30 : 9
- *詩 115 : 17
- *詩 146 : 4

- *伝 9：5～6
- *伝 9：10
- *イザ 38：18～19

(3) 永遠の運命は最後の裁きで決まる。それまでは眠っている。

- *マタ 7：22～23、25：31～46
- *ヨハ 5：28～29
- *2 コリ 5：10
- *黙 20：11～15

b. 否定する議論（7つある）

(1) 「眠る」という言葉について

- *肉体に関する言葉である。
- *不信者に関しては、この言葉は使われていない。
- *神の視点から、死は一時的な肉体の休止状態である。

(2) 死後の意識について

- *イエスの変貌（マタ 17：1～8、マコ 9：2～8、ルカ 9：28～36）
モーセの例
- *ルカ 16：19～31
金持ち、ラザロ、アブラハムの例

(3) 天使の存在について

- *ヘブ 1：14

(4) 復活という言葉について

- *マタ 27：52

(5) 死の意味について

- *信者は、死の瞬間に神の臨在のもとに入る。
- *使 7：59、ピリ 1：23、2 コリ 5：6～8、黙 6：9～11、7：9～17

(6) ある状態を描写する言葉について

- *肉体は、眠っているように見える。

(7) 永遠の運命が決まる時について

- *最後の裁きは、裁きの度合いを決定するものである。
- *地獄では霊魂が苦しむが、火の池では、肉体と霊魂が苦しむ。
- *救いは、死の瞬間に決まる。

III. 死者の場所

A. 見えない場所（13 の用語がある）

1. シオール（Sheol）

a. 聖書

＊旧約聖書では 64 回出て来る。

＊旧約聖書全般にわたって出て来る。

b. 推論

(1) 義人も罪人も死ぬと行く場所（詩 89：48）

＊旧約聖書の義人

創 37：35、42：38、44：29、31、ヨブ 14：13、詩 16：10、ヨナ 2：2

＊旧約聖書の罪人

民 16：30、33、ヨブ 24：19、詩 9：17、49：14、エゼ 32：21

(2) 信者よりも、不信者にとってより恐ろしい場所

＊ヨブ 24：19、詩 9：17、49：14

(3) 異なったレベル（区分されたスペース）がある場所

＊申 32：22、詩 86：13

(4) 方向性は常に下である場所

＊創 37：35、42：38、44：29、31、民 16：30、33、1サム 2：6、1列 2：6、9、
ヨブ 7：9、11：8、17：16、21：13、詩 30：3、箴 5：5、7：27、15：24、
イザ 5：14、14：9、エゼ 32：21、アモ 9：2

(5) 霊魂に意識のある場所

＊イザ 14：9～10、ヨナ 2：2

(6) 神の支配下にある場所

＊ヨブ 26：6、詩 139：8、申 32：22

2. ハデス（Hades）

a. 聖書

＊マタ 11：23

＊マタ 16：18

*ルカ 10：15

*ルカ 16：23

*使 2：27

*使 2：31

*黙 1：18

*黙 6：8

*黙 20：13

*黙 20：14

b. 推論（7つあり）

(1) ハデスとシオールは同じ場所

*詩 16：10 と使 2：27、31

(2) 義人も罪人も行く場所

*ルカ 16：19～31

*使 2：27、31（イエスもまたハデスにおられた）

(3) 2つの区分がある場所

*ルカ 16：19～31

*不信者の場所は狭義のハデス、信者の場所はアブラハムのふところ。

(4) 不信者には特に辛い場所

*マタ 11：23、ルカ 10：15、16：19～31

(5) ハデスへの方向性は、常に下向き。

*マタ 11：23、ルカ 10：15

(6) 霊魂が意識をもって存在している場所

*ルカ 16：19～31

(7) 一時的な場所

*黙 20：11～15

3. アバドン (Abbadon)

*破壊を意味するヘブル語

a. 聖書（7箇所）

*ヨブ 26：6（滅びの淵、滅びの穴、滅びの国）

*ヨブ 28：22

*ヨブ 31：12

*詩 88：11

*箴 15：11

*箴 27：20

*黙 9：11

b. 推論（3つあり）

(1) 上記聖句の中の3つでは、シオールと対句になっている。

*ヨブ 26：6、箴 15：11、箴 27：20

(2) この言葉は、否定的にしか用いられない。

(3) シオール（ハデス）の中の不信者の場所

4. よみの穴（The Pit）

a. 聖書（23箇所）

*ヨブ、詩、箴、イザ、エゼ（最も多い）

b. 推論（3つあり）

(1) アバドン同様、常に否定的に用いられる。

(2) 方向性は、常に下に向かっている。

(3) シオール（ハデス）の中の不信者の場所。

*アバドンと同義語

*アバドンは固有名詞、よみの穴は描写的言葉。

5. アビス（The Abyss）

*ギリシア語のアブソス。「底なし」「地下の世界」といったニュアンスがある。

a. 聖書（9箇所）

*ルカ 8：31（底知れぬ所、底なしの淵）

*ロマ 10：7

* 黙 9 : 1

* 黙 9 : 2

* 黙 9 : 11

* 黙 11 : 7

* 黙 17 : 8

* 黙 20 : 1

* 黙 20 : 3

b. 推論 (3つあり)

(1) 常に下向きの方角

(2) 墮天使の留まる場所

* 反キリストだけが例外的にそこに留まる。

(3) シオール（ハデス）の中の墮天使のための場所

* 一時的に墮天使を閉じ込める場所

* ある期間が過ぎると、そこから解放される。

* サタンは 1000 年間閉じ込められ、その後解放される（黙 20 : 3）。

6. タータラス (1箇所)

a. 聖書

* 2 ペテ 2 : 4

「神は、罪を犯した御使いたちを、容赦せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで
暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれました」

* 「暗やみの穴」（新改訳、口語訳）、「暗闇という縄」（新共同訳）

b. 推論 (5つあり)

(1) 否定的な言葉

(2) 墮天使の場所

(3) ノアの時代の墮天使

* アビスは墮天使一般の場所

(4) ユダ 6～7 の墮天使と同じ。

* 2 ペテ 2 : 4 とユダ 6～7 の関係から考えて、これらの墮天使は創 6 章の「神の

子ら」と同一。

*彼らは、人間の女と結婚し、女の子孫（創3：15）を墮落させようとした。

(5) シオール（ハデス）の中にあって、創6章の墮天使を閉じ込める場所。

*ここから出ることはできない。

*最終的には、ここから火の池に直行する。

7. 地獄（Hell）

a. 概念の起源

*この英語の言葉は、チュートン系の語源を持つ。隠す、覆うという意味。

*ヘブル語やギリシア語にはこの言葉はない。

*地獄という概念は、シオール（ハデス）の中に含まれている。

*地獄という概念は、アバドン、よみの穴と同一（シオールの中の罪人の場所）。

*地獄には、罪人しかいない。

*墮天使は、アビスかタータラスにいる。

b. 地獄の状態

(1) 罪人は、影としてしか存在しない。

*箴9：18 影は「死者の霊」と訳されている。

*イザ14：9

(2) 罪人は、苦しみの中にいる（ルカ16：23～25）。

①正義は存在しない。

②神から切り離されている所である。

③裁きの場である。

8. ゲヘナ（Gehenna）

*ギリシア語である。

a. 概念の起源

(1) Gei Hinnom（ヒンノムの谷）

(2) 旧約時代の王の中に、ここで人間をいけにえとして捧げる者がいた。

*人間が焼かれた。

*2列23：10、2歴28：3、33：6、イザ30：33、エレ7：31～32、19：1～15

b. 聖書（12箇所）

- * マタ 5 : 22
- * マタ 5 : 29
- * マタ 5 : 30
- * マタ 10 : 28
- * マタ 18 : 9
- * マタ 23 : 15
- * マタ 23 : 33
- * マコ 9 : 43
- * マコ 9 : 45
- * マコ 9 : 47
- * ルカ 12 : 5
- * ヤコ 3 : 6

c. 推論（4つある）

- (1) 失われた者（墮天使と罪人）の永遠の住まい
- (2) 霊魂と肉体の両方が裁かれる場所
 - * 地獄は、霊魂のみの苦しみの場所
 - * ゲヘナと地獄とは違う。
- (3) 永遠の苦しみの場所
 - * 地獄は一時的
- (4) 火と関係がある。
 - * 火は、苦しみを与えるためのもの。

9. 火の池（The Lake of Fire）**a. 聖書（4箇所）**

- * 黙 19 : 20
- * 黙 20 : 10
- * 黙 20 : 14
- * 黙 21 : 8

b. 推論（4つある）

- (1) 失われた者すべて（天使も人間も）の永遠の住まい
- (2) 肉体と霊魂に対する裁き
 - *「それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた」（黙 20：14）
 - *死とは肉体に関するもの。
 - *ハデスとは霊魂に関するもの。
 - *火の池は、両方に対する裁きである。
- (3) 火の池とゲヘナとは同じである。
- (4) 火の池は、火と硫黄に関係がある。
 - *それが苦しみの原因となる。

10. アブラハムのふところ (Abraham's Bosom)

a. 聖書 (1箇所)

- *ラビ文書では、この言葉は頻繁に登場する。
- *聖書では、ルカ 16：22～23 のみ。

b. 推論 (6つある)

- (1) 義人のみが留まる場所
- (2) 地獄 (Hell) と隣接している。
- (3) 地獄 (Hell) とアブラハムのふところには、越えられない淵がある。
- (4) アブラハムのふところは、シオール (ハデス) の中の義人の場。
- (5) アブラハムのふところとは、比喩的言葉である。
- (6) 死後の祝福を象徴する言葉である。

11. パラダイス (Paradise)

- *「王の庭」、「庭園」という意味。

a. 聖書 (3箇所)

- *ルカ 23：43

*2 コリ 12 : 4

*黙 2 : 7

b. 推論（4つある）

(1) 義人の住まいである。

*ルカ 23 : 43 では、パラダイスはアブラハムのふところと同じである。

*イエスの死までは、パラダイスはアブラハムのふところにあった。

(2) 今は、パラダイスは天にある。

*2 コリ 12 : 4

*イエスの昇天以降、信者はすぐに天に行く。

(3) 将来、パラダイスは新しいエルサレムに存在する。

*黙 2 : 7

(4) まとめ

*アダム～イエスの昇天まで、パラダイスはアブラハムのふところにあった。

*イエスの昇天～千年王国の終わりまで、パラダイスは天国にある。

*千年王国の後、パラダイスは新しいエルサレムにある。

12. 天 (Heaven)

a. 3つの天

(1) 第1の天：大気圏、鳥が飛ぶ空間

*創 1 : 20、26、エレ 4 : 25、ハガ 1 : 10

*マタ 8 : 20、13 : 32、使 10 : 12、14 : 17

(2) 第2の天：宇宙空間、天体が運行する空間

*創 1 : 14～18、22 : 17、26 : 4

*マタ 24 : 29、ヘブ 11 : 12、黙 6 : 13

*第1と第2の天は、見える。

(3) 第3の天：神の臨在の場

*2 コリ 12 : 1～4

b. 聖書（第3の天に関して、39の箇所がある）

(1) 旧約聖書

*創、申、1列、2列、2歴、ヨブ、詩、伝、イザ、ダニ、アモ

(2) 新約聖書

*マタ、マコ、ルカ、ヨハ

*使、2コリ、エペ、コロ、1テサ、ヘブ、1ペテ

c. 推論 (8つある)

(1) 第3の天の目撃者がいる。

*イエス (ヨハ6章)

*パウロ (2コリ 12:1~4)

*ヨハネ (黙4:1)

(2) 神の住まいである。

(3) 聖なる天使たちの住まいである。

(4) 実在の場である。

(5) 第3の天は、常に上向きである。

(6) そこから神が支配される場である。

(7) 神が礼拝を受ける場である。

(8) 今は、死んだ聖徒たちの住む場である。

13. 新しいエルサレム (The New Jerusalem)

a. 聖書 (3箇所ある)

*ガラ 4:26

*ヘブ 12:22~24

*黙 21:1~22:5

b. 推論 (6つある)

(1) 今は、第3の天に存在している。

(2) 三位一体の神の住まい

(3) 聖天使たちの住まい

(4) 死んだ聖徒たちの住まい

(5) 新しいエルサレムは、天と同じである。

＊新しいエルサレムは、天にあると言ってもよい。

(6) 新しい地ができると、天（新しいエルサレム）はそこに下ってくる。

14. 結論

a. シオールとハデスという言葉

(1) 場所は地球の中心。

＊旧約聖書では、「地下の国」。

エゼ 26 : 20、31 : 14、16、18、32 : 18、24

＊新約聖書では、「地の低い所」。

エペ 4 : 9～10

＊マタ 12 : 40 では、「地の中」。

＊シオールとハデスは一時的な場である。地球はやがて滅びる。

(2) 2 つに区分されている。

＊義人の住まい → アブラハムのふところ（パラダイス）

＊苦しみ場 → ①狭義のハデス（地獄、アバドン、よみの穴）罪人の場

②アビス（墮天使たちを閉じ込める一時的な場）

③タータラス（創 6 章の墮天使たちを閉じ込める場）

b. ゲヘナと火の池という言葉

＊ゲヘナと火の池は、同じ場所である。

＊墮落した人も、墮天使も、最終的にはここに行く。

c. 天

＊神が住まう場所

＊聖天使たちが住まう場所

＊死んだ聖徒たちが住まう場所

＊現在、パラダイスがある場所

＊天は新しいエルサレムと同じ。

＊あるいは、新しいエルサレムは天にあると言える。

B. 旧約聖書の時代**1. 聖書**

*ルカ 16：19～31

*イエスの昇天によって、時代が区分される。

2. アダムからイエスの昇天までの状態（4つある）

(1) 死ぬと、すべての人はシオール（ハデス）に行った。

*地球の中心

*2つの区分があった。

(2) 義人は、アブラハムのふところに行った。

*当時は、アブラハムのふところにパラダイスがあった。

*モーセの律法が命じる動物の血は、聖徒の罪を覆っただけである。

*ヘブ 10：1～4

*天に入るためには不十分であった。

(3) 罪人は、狭義のハデスに行った。

*地獄、アバドン、よみの穴

*苦しみの中

(4) 2つの区分の間には、超えることのできない淵があった。

C. 新約聖書の時代**1. 信者たち****a. キリストの死**

*キリストは、私たちのすべての罪のために死なれた。

*旧約聖書の聖徒たちの罪は、取り除かれた。

b. キリストの下り

*イエスは死ぬと、その霊魂はシオール（ハデス）の義人の場に行った。

*マタ 12：40

*エペ 4：9

*1ペテ 3：18～19

「キリストは捕らわれの霊たちのところに行って、みことばを語られた」

・セカンドチャンスではない。

- ・宣教や伝道ではなく、宣言である。
- ・自らの死が、救われていない者の裁きの保証になったと宣言した。
- ・アブラハムのふところから、地獄を見ることができた。

c. キリストの昇天

- * 昇天の時に、旧約聖書の聖徒たちの魂を天に上げた。
- * エペ 4：8～10
- * その結果、アブラハムのふところは消滅した。
- * パラダイスは今、第3の天にある（2 コリ 12：1～4）。

d. 今日の聖徒たち

- * 死ぬと、その魂はすぐに天に行く。
- * 2 コリ 5：6～8
- * ピリ 1：21～23

2. 不信者たち

- * 状況に変化はない。
- * 死ぬと、靈魂は直ちに狭義のハデス（地獄）に行く。

D. 将来

1. 信者たち

a. メシア的王国

- (1) 黙 20：4～6
- (2) 教会時代の聖徒たち（4 節）
 - * 携挙の時に復活する。
 - * キリストの裁きの座
 - * 再臨のキリストとともに地上に帰還する。
 - * 千年間メシアとともに統治する。
- (3) 大患難時代の聖徒たち
 - * メシア再臨の後に復活する。
 - * 教会時代の聖徒たちと同様に、千年間メシアとともに統治する。
- (4) 旧約時代の聖徒たち

- *メシア再臨の後に復活する。
- *イザ 26：19、ダニ 12：2
- *千年王国の間、約束の地に住む。
- *約束の地を相続する。

b. 永遠の秩序

- (1) 新しいエルサレムに住むようになる。
 - *新しいエルサレムは、第3の天にある（第3の天そのもの）。
 - *メシア的王国の後に新しい地ができ、そこに新しいエルサレムが下る。
 - *黙 21：1～22：5
 - *その段階で、パラダイスは新しいエルサレムに存在する（黙 2：7）。

2. 不信者たち

a. 永遠の状態

- *千年間のメシア的王国が終わるまで、シオール（ハデス、地獄）に留まる。
- *メシア的王国の終わりに、地獄から出される。
 - 黙 20：11～15
- *これを第2の復活という。
- *この時点で、地獄は消去される。
- *白い御座の裁き
- *これは、刑罰の度合いを決する裁きである。
- *次に、ゲヘナ（火の池）に行く。

b. 聖書

- *ゲヘナと火の池の箇所を参照
- *不信者の永遠の住まいは、火の池である。

c. 描写的表現（9箇所）

- (1) 燃えるゲヘナ（火の地獄）
 - *マタ 5：22、18：9
- (2) ゲヘナの刑罰（地獄の罰）
 - *マタ 23：33
- (3) 外の暗やみ
 - *マタ 8：12、22：13、25：30

(4) 消えない火（消えることのない火）
*マタ 3：12、マコ 9：43、ルカ 3：17

(5) 永遠の火
*マタ 25：41、ユダ 7

(6) 永遠の滅び（永遠の破滅）
*2 テサ 1：9

(7) 火の燃える炉（燃え盛る炉）
*マタ 13：42、50

(8) まっ暗なやみ（深い暗闇）
*2 ペテ 2：17、ユダ 13

(9) 第二の死
*黙 2：11、20：14、21：8

d. 不信者の火の池での状態

*「…彼らの苦しさの煙は、永遠にまでも立ち上る…」（黙 14：10～11）

*消えることのない火（マタ 9：48）

*「…泣いて歯ぎしりするのです」

マタ 8：12、13：42、50、22：13、24：51、25：30、ルカ 13：28

*不義な者が集められる場所

黙 21：8、22：15

*神の怒りを永遠に経験する場所（ヨハ 3：36）

e. 推論（8つある）

(1) 神の恵みから完全に切り離される。

(2) 終わりのない人生の苦悩

(3) 肉体と靈魂の痛み

(4) 良心の呵責

(5) 激痛

(6) 絶望

(7) 苦悩

(8) 意識は永遠に続く。

f. 継続期間

- *永遠に続く（黙 14：11）
- *聖徒の喜びと同じ（マタ 25：46）
- *「そこでは、彼らを食ううじは、尽きることがなく、…」（マコ 9：48）

E. 誤った説

*2つの誤った説がある。ローマ・カトリック教会が起源になっている。

1. 幼児霊域 (Limbus Infantum)

a. 概念

- *ラテン語で、リムブス インファントムという。
- *Limbus というのは、「縁」、「接するところ」という意味。
- *Infantum というのは「幼児たち」、「幼子たち」という意味。
- *地獄の縁に、幼児霊域があり、洗礼を受けていない幼児たちはそこに行く。
- *刑罰を受けないが、天国の祝福も受けない。

b. 批判

- (1) これは、洗礼による新生の教理が前提になっている。
 - *数滴の水が、幼児を救う。
 - *洗礼を受けていない幼児のために、幼児霊域という概念を考えた。
- (2) 聖書にはそのような教えはない。

2. 煉獄 (Purgatory)

a. 概念

- *煉獄とは、聖めをする場である。
- *地獄に行くほど悪くはないが、天国に行くほど良くもない者が行く場所
- *しばらく煉獄で時を過ごし、それから天国に行く。

b. 証明する聖句 (6箇所)

- *イザ 4：4 「エルサレムの血をその中からすすぎ清めるとき、」
- *ミカ 7：8 「やみの中にすわっていても、【主】が私の光であるからだ」
- *ゼカ 9：11 「あなたの捕らわれ人を、水のない穴から解き放つ」
- *マラ 3：2 「この方は、精錬する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ」
- *1 コリ 3：13～17 メシアの裁きの座における火
- *1 コリ 15：29 死者のためのバプテスマ

煉獄の証明は、外典（Apocrypha）から来る。

＊マカバイ記下 12：41～45

「一同は、隠れたことを明らかにされる正しい裁き主の御業をたたえながら、この罪が跡形もなくぬぐい去られることを、ひたすら祈願した。高潔なユダは、これらの戦死者たちの罪の結果を目撃したのであるから、この上はだれも罪を犯してはならないと一同を鼓舞した。

次いで、各人から金を集め、その額、銀二千ドラクメを贖罪の献げ物のためにエルサレムへ送った。それは死者の復活に思いを巡らす彼の、実に立派で高尚な行いであつた。もし彼が、戦死者の復活することを期待していなかったなら、死者のために祈るということは、余計なことであり、愚かしい行為であつたろう。

だが彼は、敬虔な心を抱いて眠りについた人々のために備えられているすばらしい恵みに目を留めていた。その思いはまことに宗教的、かつ敬虔なものであつた。そういうわけで、彼は死者が罪から解かれるよう彼らのために贖いのいけにえを献げたのである」

c. 批判（3つある）

(1) 以上の聖句は、煉獄の証明にはなっていない。

＊イザ 4：4 大患難時代の終わりにおけるエルサレムの罪に赦し

＊ミカ 7：8 信者はやみの中にいても、神は光である。

＊ゼカ 9：11 将来の復活

＊マラ 3：2 大患難時代の裁き

＊1 コリ 3：13～17 キリストの裁きの座のこと

＊1 コリ 15：29 この聖句がどういう意味であるにせよ、煉獄ではない。

(2) マカバイ記下 12：41～45 で語られている罪は、偶像礼拝の罪である。

＊カトリックの教理では、偶像礼拝は「死に至る 7 つの大罪」のひとつ。

＊偶像礼拝の罪は、煉獄では解決しない。

(3) 煉獄の教えは、メシアの御業の完全性を否定する。

＊信者は煉獄と通過する必要はない（テト 2：14、ヘブ 1：3）。

フルクテンバウム・セミナーDVD／CD

2012年『聖書が教える死後の世界 — 個人的終末論 —』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2011年『聖書が教える救いとは』 「救いの10の側面」「33の事項：位置的真理に関する学び」	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2010年『天使論、サタン論、悪霊論』	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2009年『終末論とイスラエル』 「ロマ書9章～11章の研究」「ロマ書とユダヤ人」	DVD 8 枚組／CD 8 枚組
2008年『神の人類救済プログラム』 1. ディスペンセーションとは何か 2. ディスペンセーションの種類 3. 契約神学（置換神学の主流） 4. 解釈学 5. 救済論 6. 教会論 7. 終末論	CD 8 枚組
2007年『三位一体』 イントロダクション 1. 神の位格の複数性 2. 神の位格の単一性 3. 三位一体の神 4. 結論	CD 4 枚組
2007年『旧約聖書におけるメシア預言』 イントロダクション 1. 律法 2. 預言書	CD 4 枚組
2006年『イスラエル学』 1. 過去のイスラエル 2. 現在のイスラエル 3. 将来のイスラエル 4. その他の関連事項	CD 8 枚組
2005年『ユダヤ的視点から見たメシアの生涯』 1. その誕生と成長過程 2. イエスの教えとパリサイ人との葛藤 3. メシアの裁判 4. メシアの死 5. 復活と昇天	CD 12枚組
2003年『ヨハネの黙示録』 1. ヨハネが見たこと 2. 今ある事 3. この後に起こること 結論	CD 6 枚組
2002年『聖書の八つの契約』 はじめに 1. エデン契約 2. アダム契約 3. ノア契約 4. アブラハム契約 5. モーセ契約 6. パレスチナ契約 7. ダビデ契約 8. 新しい契約 結論	CD 9 枚組
2001年『イスラエルの祭りに隠されたイエス・キリスト』 1. 過越の祭り 2. 種を入れないパンの祭り 3. 初穂の祭り 4. 七週の祭り(ペンテコステ) 5. 春の祭りと秋の祭りの間の4か月 6. ラッパの祭り 7. 贖罪の日 8. 仮庵の祭り	CD 10枚組

ご注文はハーベスト・タイム（055-993-8880）まで。



無断複製・転載を禁じます

2012 年 4 月、5 月開催（大阪、東京）